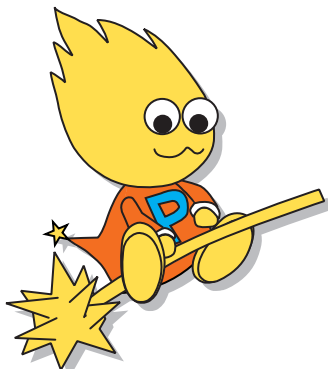
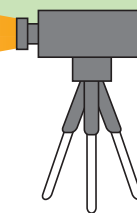




EDIがわかる本

30分でわかる
勝ち組企業の
プロジェクトEDI

登場人物紹介



プラネット太くん

とある惑星に住む星の精、
何にでも興味を持つが
難しいことは苦手、
いつも空を飛んでいる

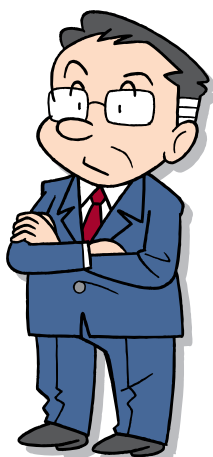


先生

EDIを誰よりも深く
理解している謎?の先生、
プラネット太くんに対抗して
雲に乗っている

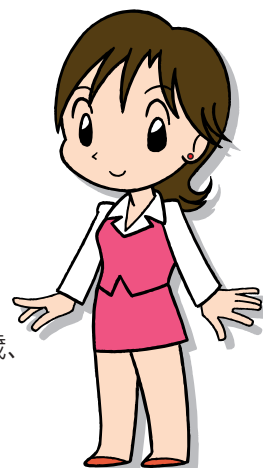
経理部長(志村さん)

52歳、仕事熱心、
新しいものは苦手、
妻と娘(20歳)の
3人家族



経理OL(中村さん)

最近転職してきた23歳、
新しいこと大好き、
要領が良い、彼氏なし



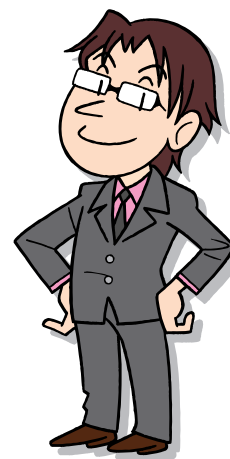
営業(若木さん)

32歳、新婚、
元気がいいが
おっちょこちょい



取引先社員(仲町さん)

経理担当、30歳、
独身、海外旅行好き



Contents

1.EDI攻略（初級編）

01 EDIの役割	2
02 あなたの会社のEDIレベルを知ろう	4
03 紙伝票からEOSへ	6
04 EOSから個別EDIへ	8
05 個別EDIから標準EDIへ	10
06 データベースを活用した理想的標準EDIへ	12
07 業界VANで「いいEDI」を	14
08 EDIを実現しよう（業務編）	16
09 EDIを実現しよう（IT環境編）	18

2.EDIサービス紹介（活用編）

10 プラネットEDIサービスとは	20
11 EDIを利用した業務フローとは	24
12 発注データとはどんなデータ	26
13 仕入データとはどんなデータ	28
14 請求（照合・鑑）データとはどんなデータ	30
15 在庫データとはどんなデータ	31
16 販売データとはどんなデータ	32
17 EDIのサポート機能について	34
18 将来に向けたフル装備EDIサービスについて	36
19 バイヤーズネットについて	38
20 プラネットのユーザーサポート	40
21 EDI用語集	41
22 おさらいEDIクイズ	42
プラネットの概要	43
プラネットの歩み	44
おわりに	45

EDI... (Electronic Data Interchange) 電子データ交換の略。企業間でコンピュータによる通信を介して、取引に必要な発注～決済などのデータを交換することにより取引業務を完結すること。

EDIは業務改善に貢献し、経営のインフラとしての役割を果たします。

流通業界を取り巻く環境

景気後退による消費不況が長らく続いた流通業界にも、ようやく景気の底入れ感が出てきました。しかし、流通業界を取り巻く環境は、必ずしもよくなっているとは言えません。

- 増税・年金問題などへの将来不安や少子高齢化の加速により、市場成長は鈍化しています。
- インターネットや携帯電話の普及により、消費者の選択肢が広がり、価値観やニーズも多様化しています。
- 酒類・医薬品販売に関する規制緩和、リサイクル法の施行など、流通制度も変化しており、異業種企業や外資系企業の参入障壁が低くなりつつあります。
- グローバル化で、企業の海外進出・調達が増えたり、優秀な人材の流出で人材確保が難しくなっています。
- 規模が小さい企業や、レガシー問題*を抱えている企業では、高度情報化が十分に進んでいません。
- 相次ぐ企業不祥事の影響で、企業の社会的責任に対する関心が高まっています。また、個人投資家の増加で、投資先としての企業価値への関心も高まっています。

EDIの役割

EDIは、このような環境変化に直接、あるいは間接的に対応するための手段となり得ます。EDIの役割は、大きく2つに分けられます。

▶ 1. 取引業務の効率化

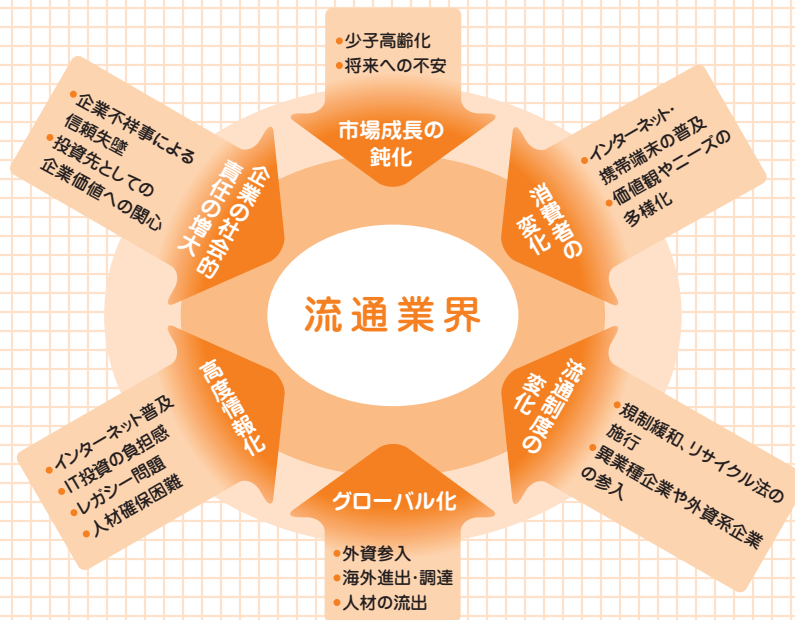
- 市場成長の鈍化で、ますます低コスト体制と顧客へのきめ細かなサービス体制づくりが必要となります。EDIの活用で業務の合理化、省力化、人的ミスの削減などができ、低コスト体制づくりが図れます。
- グローバル化や流通制度の変化で、異業種企業や外資系企業との取引が増える可能性が高まります。国際標準に対応できるEDIを導入することで、取引がスムーズになります。
- EDI導入で取引業務の自動化を進めると、ペーパーレスを推進できます。このことは、企業の社会的責任のひとつである「環境への配慮」につながります。

E-D-Iの役割



EDIの役割

流通業界を取り巻く変化



だからこそ、
EDIが必要なのです。

取引業務の効率化 戦略的経営実現

1. EDI攻略(初級編)

2. EDIサービス紹介(活用編)

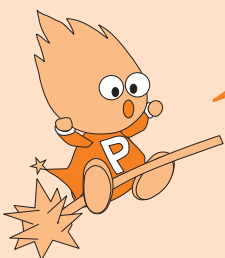
▶ 2. 戦略的経営の実現のためのインフラ

- 消費者の変化に伴い、流通業は「消費者基点」での経営を求められています。そして消費者が何を求めているか、何が売れているかをすばやく把握し、店頭につなげるしくみづくりが必要です。EDIはそのようなしくみの前提条件となっています。
- 企業のIT投資への負担感が増していますが、EDIサービスを提供・運営しているVAN会社*を利用することにより、IT投資の負担を軽くし、費用対効果をアップできます。
- 消費者の商品の安心・安全への意識が高まっており、商品がどのような過程を経て消費者のもとに届くのかという情報を開示することが望まれています。トレーサビリティシステムの実現に、EDIが果たす役割は大きいと考えられます。



Point

EDIの役割とは



EDIは単なる取引業務の効率化だけではなく、いろいろなことに役立っているんだね。もっと勉強しなくっちゃ。

それはいい心がけだね。EDIひと筋23年の私が解説してあげよう。



EDIにはいくつかのレベルがあり、交換できるデータの種類やフォーマット*などが標準化されているかどうかによってレベルが異なります。

EDIレベルチェック!

まずはあなたの会社のEDIレベルをチェックしてみましょう。
このEDIレベルは、企業の取引業務効率化の進化の過程を表しています。



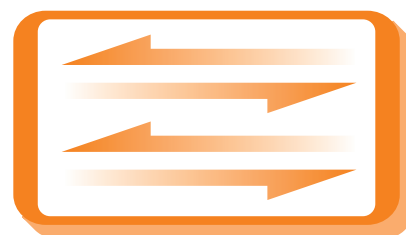
① 紙伝票

オンライン*未導入の状態です。
すべての取引業務は伝票を通じて行っています。受発注業務の中心は電話やFAX、あるいはセールス受注です。注文の聞き違いや伝票への転記ミス、コードの検索ミス、入力ミス等が起こりやすく、入力後のチェック作業も必要となります。



② EOS

オンラインで発注のみができる状態です。発注書をExcelなどで作成し、電子メールに添付して取引先に送信するのも、広い意味ではEOSに分類されます。主に受発注業務の効率化を図るために導入されますが、決済に至る業務においては、人手を介するため、十分な効率化が図られているとはいえません。



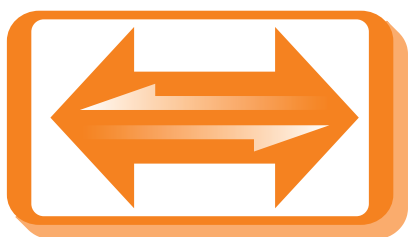
③ 個別EDI

オンラインで発注から決済までの取引業務が行える状態です。ただし、個別仕様のシステムのため、取引先に個別仕様への対応を依頼する必要があります。業務の効率化は進みますが、一方で個別仕様がネックとなり、複数の取引先同士で利用できないというデメリットも生じてきます。

あなたの会社のE-D-I-レベルを知ろう

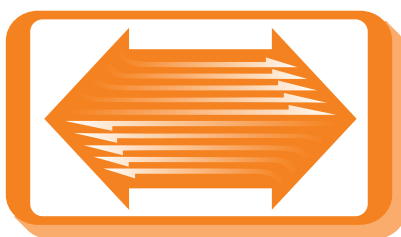


あなたの会社のEDIはどのレベルかな？
これから、EDIを導入するなら、いちばんレベル
の高い「理想的標準EDI」を目指そう！



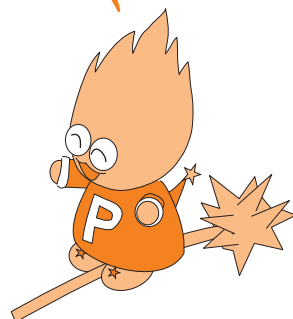
④ 標準EDI

オンラインで発注から決済までの取引業務が行える状態です。フォーマットは標準化され、複数の取引先同士で利用できるシステムです。ただし、この段階では、データ項目の使い方やコードの標準化はなされていないため、自社システムとの間で取引先ごとに項目の変換やコード変換*が必要になります。



⑤ 理想的標準EDI

標準EDIと同様に、オンラインで発注から決済までの取引業務が行える状態です。フォーマットは標準化され、複数の取引先同士で利用できるシステムです。さらに、データ項目の使い方やコードも標準化されており、取引先ごとに行っていた無駄な項目変換やコード変換が不要になります。理想的なEDIです。



Point

EDIレベルが高いのは理想的標準EDI



基本的には、紙伝票<EOS<個別EDI<標準EDI<理想的標準EDIの順に利用メリットは大きくなるんだよ。しかし、現状を改善するために、今あるシステムより1つ上のシステムを導入すればよいというものでもないんだ。これから導入するなら『理想的標準EDI』を検討すべきだよ。

え、そうなの？ 最初から理想的なところを目指すなんてできるの？



03 紙伝票からEOSへ

発注業務の効率化を図るため、最初に導入されたのがオンライン受発注のしくみです。

紙伝票での取引

オンライン取引が導入されていない場合、受発注業務は電話やFAX、あるいはセールス受注が中心となります。電話での受発注の場合、担当者同士の直接のやりとりになるため、注文の聞き違いや伝票への転記ミス、コードの検索ミス、入力ミスなどが起こりやすく、入力後のチェック作業も必要です。発注側では、取引先へ直接電話やFAXで連絡する必要があるため、発注担当者が何人も必要な上、時間もかかります。受注側ではすべての取引先に対応できるよう各受注拠点に受注担当者を何人も配置する必要があり、人件費や通信費などの面でコスト高だと言えます。

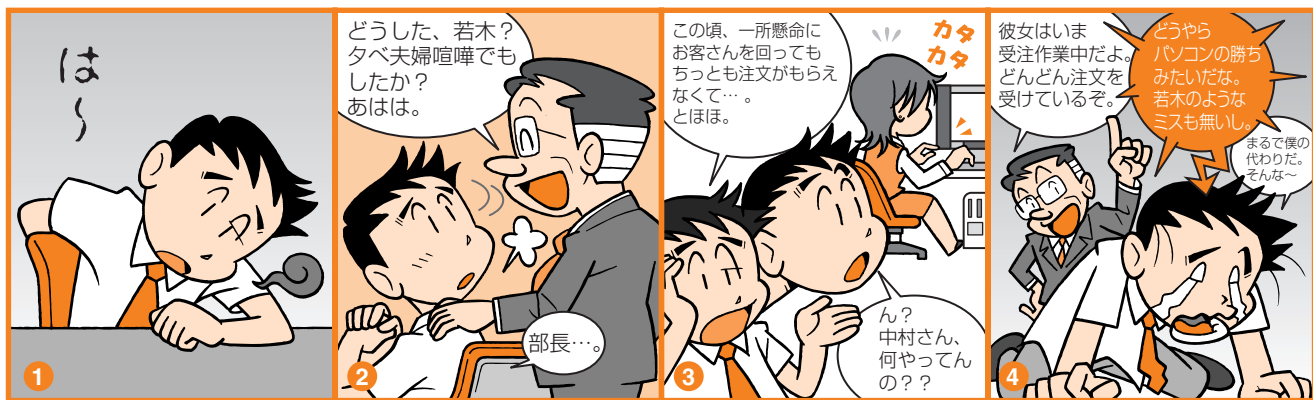
EOSとは

Electronic Ordering Systemの略称で、電子発注システムと呼ばれています。日本では1970年代に、主に小売業の発注業務効率化を図るために導入されたシステムです。通信プロトコル（接続の方法）が統一化され、誰でも簡単に受発注できるということで、小売業と卸売業の間で広く普及しました。

EOSのメリット

- EOSは、コンピュータで処理された発注データを、人手を介することなく取引先に提供できるため、転記ミス、入力ミスなどがなくなります。
- 発注担当者は、複数の取引先へ同時に発注できるようになり、発注業務が大幅に効率化できます。
- より多くの取引先とEOSを利用することによって、業務の効率化やコスト削減効果が高くなります。

紙伝票からEOSへ



紙伝票からEOSへ

紙 伝 票



受発注業務の中心は
電話やFAXあるいはセールス受注

課 題 点

注文の聞き違いや伝票への転記ミス、入力ミス
入力後のチェック作業

直接電話やFAXで連絡する必要があるため、
各拠点に受発注担当者を配置、人件費・通信費
等のコスト高

E O S



EOSとは、電子発注システム

メリット

業務の効率化やコスト削減効果

複数の取引先へ同時に発注でき、
転記ミス・入力ミスがなくなる。
コンピュータで処理されたデータを人手を介す
ことなく取引先へ提供できる。

発注業務の効率化

発注担当者は、複数の取引先へ同時に発注で
きるようになる。

受注者側には新たな負担が・・・

フォーマット（データ形式）やデータ項目の使い方、コード（商品や取引先のコード）について、各々取り決めを行う必要があるため、取引先ごとにフォーマット交換やコード変換を行う必要がある。

EOSのデメリット

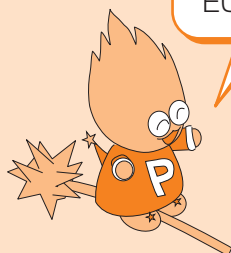
- 取引のある2社間で、フォーマット（データ形式）やデータ項目の使い方、コード（商品や取引先のコード）について取り決めを行う必要があり、多くの場合は発注者主導で決められます。そのため、受注者側は、取引先ごとにフォーマット変換やコード変換を行わなければならない、新たな負担となります。
- EOSでは固定長フォーマット*が使用されているため、データ項目を増やすとEOSを接続しているすべての取引先がシステムを変更しなければなりません。システムのメンテナンス性が非常に悪いといえます。



Point

EOSは30年前に形作られた方式

EOSを導入すると紙の伝票がなくなるんだよね？



確かに発注伝票はなくなるね。でも通信手順やシステムなどは30年前に形作られた方式で、現在はフォーマットが3,000種類も存在するといわれている。将来にわたってこのシステムを維持するには、多大なメンテナンスコストを覚悟しなければならないんだよ。



04 EOSから個別EDIへ

個別EDIの導入で、受発注以外の取引も電子化できます。

個別EDIとは

ここでいう個別EDIとは、複数のデータ種類(受発注、入荷検品・物品受領、売上・仕入、請求・支払など)を扱える企業間電子データ交換システムのことを指します。後述する標準EDIとは異なり、フォーマットやコードは標準化されておらず各社個別仕様です。

個別EDIのメリット

- 複数のデータ種類を扱えるようになるため、業務の自動化が進み、発注から決済までの業務効率がアップします。
- 導入を持ちかけた側がフォーマットやコードを決め、相手側がこれに対応することが慣例となっているため、持ちかけた側は自由度が大きいといえます。

個別EDIのデメリット

- フォーマットやコードが各社各様のため、特定の取引先と個別に取り組む必要があります。
- 取引のある2社間で、フォーマットやコードについて取り決めを行う必要があり、EOSと同様に多くの場合は発注者主導で決められます。そのため、受注者側は、取引先ごとにこれらの取り決めを行い、フォーマット変換やコード変換を行わなければならない、新たな負担となります。
- EOSに比べ、EDIは取り扱いデータ種類も多く、取引先からの導入要請に対応できる企業が限られるため、特定の取引先との取引業務しか効率化できません。

E-O-Sから個別E-D-Iへ



個別EDIとは・・・

複数のデータ種類（受発注、入荷検品・物品受領、売上・仕入、請求・支払など）を扱える
企業間電子データ交換システム

個別EDI



業務フロー

受発注

入荷検品
物品受領

売上・仕入

請求・支払

EOSではここまで

個別EDIはすべてに対応

ただし、取引先ごとに取り決めをする点では
EOSと同じように、フォーマット変換やコード変換が必要

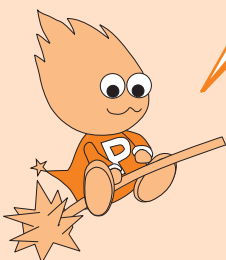
1. EDI攻略（初級編）

2. EDIサービス紹介（活用編）



Point

個別EDIはEOSの進化形



EOSに比べて個別EDIはカバーできる業務範囲が広いんだね。
他の伝票もいっぱいなくなりそう！早速、導入しようっと！

ちょっと待ちなさい。あせっちゃいけないよ。個別EDIは導入
を持ちかけた側のメリットが高い反面、持ちかけられた側には
システム対応の負担が大きいんだ。だから対応したがいらない
ところが多くて、なかなか取引先が広がらないんだよ。



EDIの標準化で、さらに効率的な取引ができるようになります。

標準EDIとは

中立的な機関によって標準化された規約にもとづいた企業間電子データ交換のことです。標準化された規約とは①EDI取引規約*、②運用ルール*、③フォーマット、④通信プロトコル*の4つです。

標準EDIのメリット

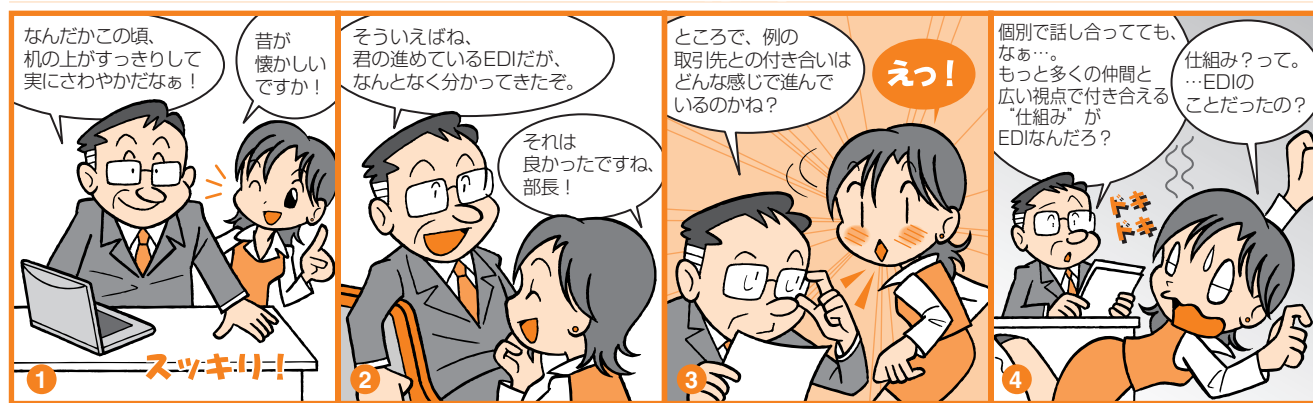
- 送受信するデータは、標準メッセージとして伝票ごとに規格化され、項目の意味・属性も定められているため、特に相手を意識せず標準フォーマットと自社フォーマットの変換機能のみの開発で対応できます。
- 標準化されているため、企業間の力関係にかかわらず、データ交換をする企業同士が対等の立場で接続しあえます。
- 標準EDIは、発注側も受注側も、相手によって個別にフォーマットを変換するシステムを準備することなく他の取引先へ導入展開できるので、接続先を増やしやすく、その効果が投資回収につながります。

標準EDIのデメリット

特にありません。しいて挙げるなら以下の通りです。

- 発注側も受注側も標準化された規約を守らなければなりません。
- 標準化されるまで時間がかかる場合があります。新技術や新しいデータ種類が必要になっても、全体の合意形成を得るため、一定の手順を踏んで標準化されます。
- 「標準化された規約」にコードの標準化は含まれていないため、その取り決めやコード変換作業が必要です。

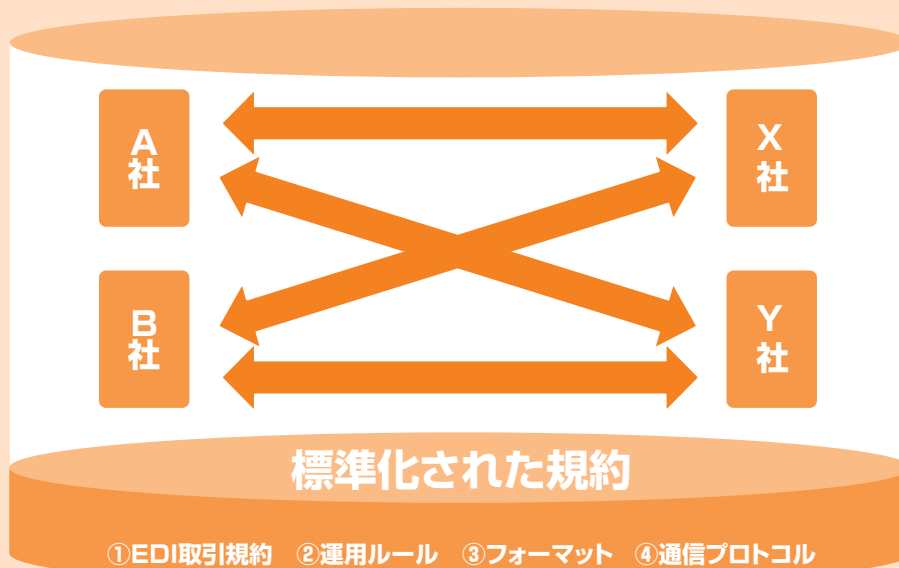
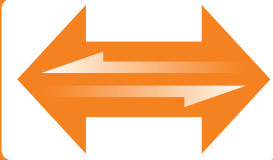
個別-E-D-Iから標準-E-D-Iへ



標準EDIとは・・・

標準 E D I

中立的な機関によって標準化された
規約にもとづいた企業間電子データ交換



特定の相手を意識することなく、導入展開が可能
双方にメリットが得られるWin-Winの関係

1. EDI 攻略 (初級編)

2. EDI サービス 紹介 (活用編)



Point

標準EDIだとWin-Winの関係に



標準EDIはEOSや個別EDIと異なり、双方がメリットを得られるWin-Winの関係づくりができるんだ。この段階ではじめて人も伝票も不要になり、ペーパーレスが実現できるんだよ。

標準って、思っていたよりずっと大事なことなんだね。勉強になるな～。



標準化されたコードを利用することが取引業務の自動化の鍵になります。

理想的標準EDIとは

ここでは、データベースを活用しコードまで標準化した標準EDIをこう呼んでいます。コードには主に商品コードと取引先コード、拠点コードなどがありますが、標準EDIの規約にはコードの標準化は含まれていません。そのため、理想的標準EDIの事例は数少ないのが現状です。

理想的標準EDIのメリット

標準EDIのメリットに加え、以下のメリットがあります。

- 商品コードや取引先コード、拠点コードなどが標準化されているため、各企業でコードの変換やメンテナンスを行う必要がありません。
- ほとんどの処理が自動化されるため、人件費を含む業務処理コストが大幅に削減できます。
- 企業間の業務提携や合併時に、システムやデータの移行、統合がスムーズに行えます。
- 業務系のシステム要員の大半は、戦略系のシステム要員にシフトできます。

理想的標準EDIの実現のために

誰もが知っている「JANコード」は、バーコードとして商品などに表示され、POSシステムや受発注システム、在庫管理システムなどに利用されており、共通商品コードとして流通業の情報システムになくてはならないものですが、このコードは「(財)流通システム開発センター」が企業の申請にもとづき付番・管理しています。このように、コードの標準化といっても、実際にはコードをデータベース化し一元管理する組織がないと実現が難しいと考えられます。

フォーマット、データ項目、コード、運用ルール、料金負担ルールなどを標準化し、EDIとデータベースを継続運用する組織が必要になります。化粧品・日用雑貨業界ではプラネットが理想的標準EDIを実現しています。

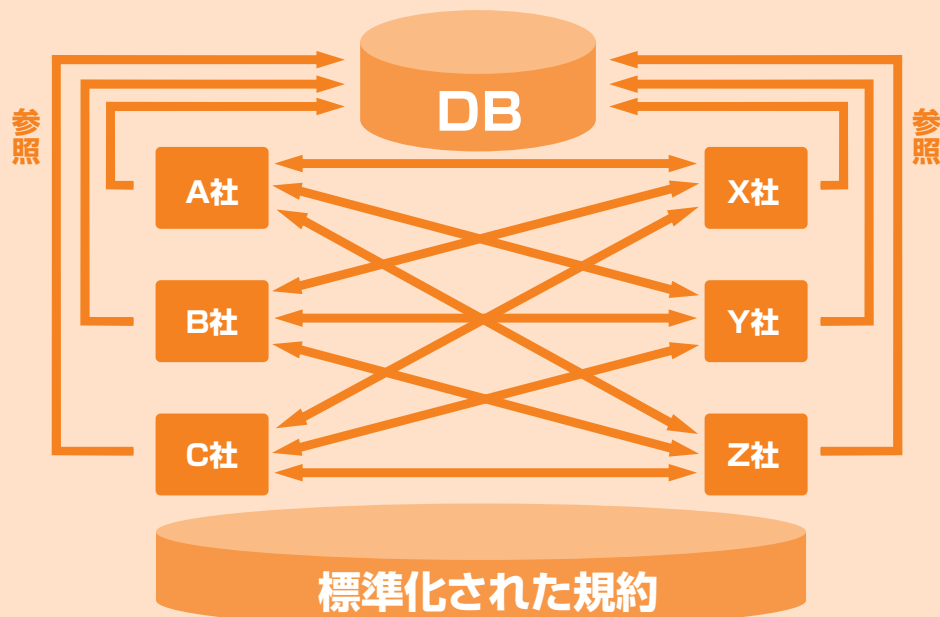
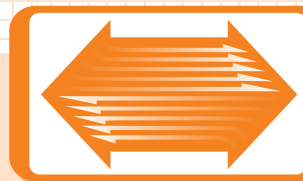
データベースを活用した理想的標準EDIへ



データベースを活用した理想的標準EDIへ

理想的標準EDI

データベースを活用しコード（商品コード、取引先コード、拠点コードなど）の標準化までされた企業間電子データ交換



各企業間で、コードの変換やメンテナンスを行う必要がなくなり
ほとんどの処理が自動化されます

1. EDI 攻略（初級編）

2. EDI サービス紹介（活用編）



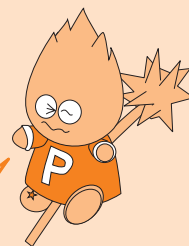
Point

これから導入するなら理想的標準EDI

理想的標準EDIは、標準EDIの発展形なんだよ。現行のシステムを見直す際には、国際標準に準拠した理想的標準EDIがお勧めなんだ。



規約、データベースと国際標準か～。だんだん話が難しくなってきたような。理想を簡単に実現するうまい方法はないのかな…。



「業界VAN^{*}はもう古い」という誤解があるようですが、サービスの充実した業界VANの利用は、理想的標準EDI導入を成功に導く近道です。

標準EDIを導入しようとしても、すべての取引先との調整やシステム開発・増強を自社で行うのは現実的ではありません。実際、EDIを導入する場合には、VAN（付加価値通信網）が提供するEDIサービスが利用されることが多いようです。VANの一般的なサービスとしては、各種のデータ伝送サービスやメールサービス、通信速度・通信プロトコル・データフォーマットなどの変換サービスが挙げられます。加工食品業界や医薬品業界、化粧品・日用雑貨業界、ペット業界、大衆薬業界など、業界単位での取引には、業界VANが利用されています。

1. 取引先の拡大が容易

- 標準仕様（ネットワーク、通信手段、フォーマット）に対応したシステムを1つ用意すれば、既に同じVANを利用している複数の企業と極めて早期に標準EDIを実施できます。
- サービスが充実している業界VANを利用すると、個々の取引先と通信システム上の調整を行う必要がありません。

2. システム開発コストや運用コストが安価

- 多数の企業が共同でシステムを利用するため、1社単独で複数の取引先とネットワークを構築する場合や、プライベートVAN^{*}を利用する場合に比べ、初期投資とランニングコストをともに安く抑えることができます。

3. 安全で信頼性の高いネットワークの利用

- 不正アクセスや情報の改ざん・破壊などに対するセキュリティと、通信パフォーマンス・信頼性が高いネットワークを利用できます。
- 業界VANはデータの中身を見ない方針のため、自社のデータが他社に漏れることもありません。

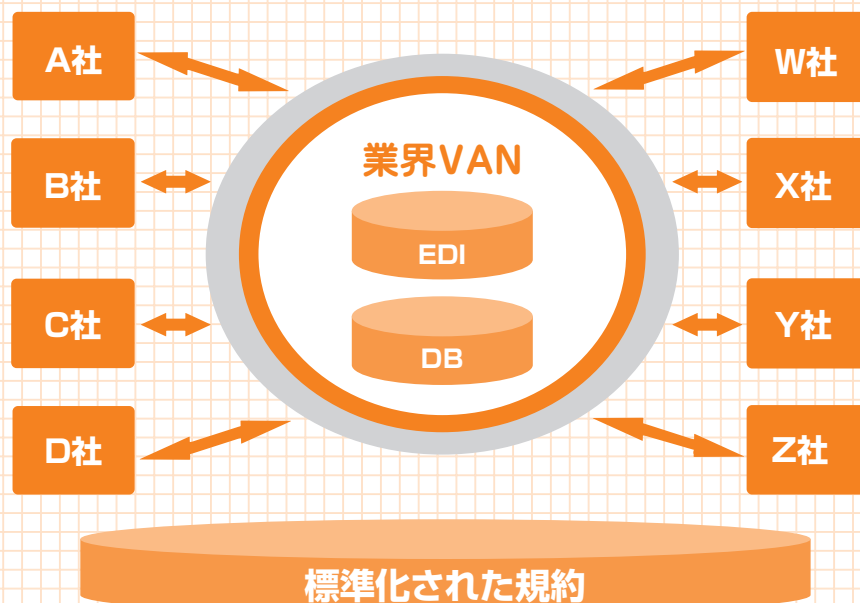
4. データベースサービスが充実

- サービスが充実している業界VANでは、標準化された商品データベース^{*}、取引先データベース^{*}を利用することができます。理想的標準EDIに不可欠なコードの標準化を早期に実現することができます。

業-界-V-A-N-で-「い-い-E-D-I」-を



これが「いいEDI」だ！



業界VANを使うと理想的標準EDIを
シンプルに、安く早く実現できます

1. EDI 攻略 (初級編)

2. EDI サービス紹介 (活用編)

5. プロトコル、コード、フォーマットを相互変換

- サービスが充実している業界VANでは、接続する取引先とプロトコルや文字コード^{*}、標準フォーマットのバージョンが異なる場合、「システムを1つ用意すれば、VANを利用するすべての取引先とつながる」ように相互変換を行っています。これにより、取引先のシステムレベルを気にせず、プロトコルやフォーマットのバージョンアップを行うことができます。

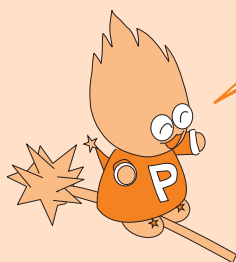
6. 国際標準に対応

- 一度決まった標準は永遠に使えるわけではありません。標準化の波は、業界から業際、業際から国際へと、より広く世界的になってきています。広い視野で無理なく標準化を進められるのは、現時点では業界VANにおいて他にはないでしょう。



Point

業界VANも利用してスムーズなEDI導入を



おおっ、さっきまでの複雑な線が1本に！
みんなで「業界VAN」とつながればいいのか、
これはシンプルだね～。『いいEDI』なら導入できそう！

「業界VAN」とひと口にいても、いろいろあるからな～。
各種のデータ伝送サービスやデータベースサービス、
変換サービスなどが充実しているところを選ばないとね。



EDI導入の前に、その目的や目標を関係者全員が共有することが重要です。

EDIがどのように発展してきたか、どのようなメリット・デメリットがあるか、イメージはつかめたでしょうか。次は、あなたの会社でEDIを導入するとしたら、どのような準備が必要なのかをまとめました。実際にはもっと細かい手順を踏むことになりますが、おおまかなイメージをつかんでいただきたいと思います。まずは業務編です。

1. EDI導入の目的を明確にする

何のためにEDIを導入するのか社内で確認しましょう。通常、自社のシステム開発だけではEDIを導入することはできません。取引先との取り組みが必要となるため、お互いの導入メリットを確認し、Win-Winの関係を築きましょう。

2. EDI導入の目標と計画を立てる

本格的な合理化のメリットを得るには、多くの取引先との接続が必要です。まずはどの取引先との間にEDIを導入するのか、最終的にどこまでを接続先とするのか、目標と計画を立てましょう。

3. トップと現場担当者の納得・合意を得る

本格的な合理化メリットを得るまで、従来業務と新業務を併行することになります。トップの強いリーダーシップのもと、現場担当者が近い将来の理想的な業務体制をイメージし、一時的な不便さに納得できるようにする必要があります。

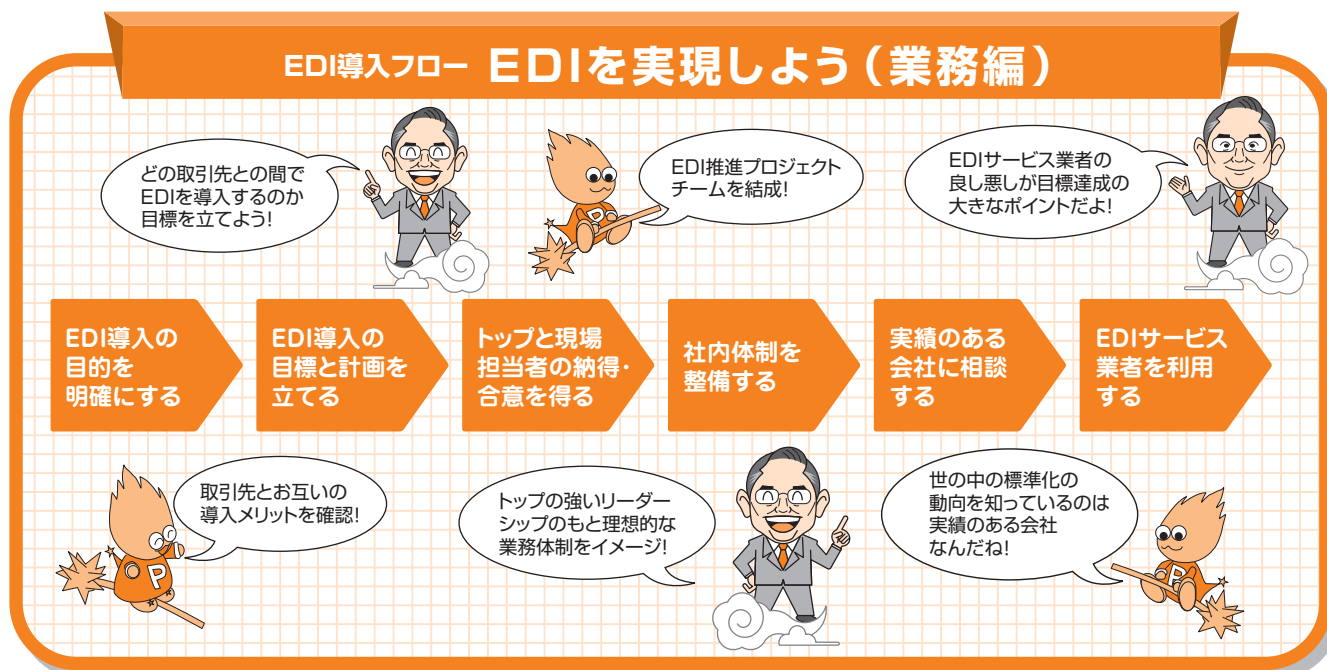
4. 社内体制を整備する

継続的なEDI推進を行うための組織が必要となります。関連部署から1名以上のメンバーを選出し、EDI推進プロジェクトチームを立ち上げましょう。

EDIを実現しよう(=業務編=)



EDI導入フロー EDIを実現しよう(業務編)



5. 実績のある会社と相談する

EDI推進プロジェクトチームは、社内の調整に加えて、世の中の標準化の動向を調査し、吟味する必要があります。ただ、闇雲に調べるのは時間がかかる上、研究中のものや、規模や業界に合わないものなどが含まれるので、チームが混乱する場合があります。

まずは、標準EDIの実績があり信頼できる会社と相談してみましょう。

6. EDIサービス業者を利用する

ノウハウのあるEDIサービス業者を利用することは確実な実現方法です。ただし、標準化については不得意な業者が多いので、複数のEDIサービス業者を比較検討し、総合的に判断しましょう。

EDIサービス業者を選択するポイントは①標準化のレベル、②サービスレベル、③導入・運用コストになります。導入・運用コストは安い、標準化のレベルが低かったり、取引先を増やすのに苦労するようでは、浮いたコスト以上に自社の人件費がかかってしまいます。

EDIサービス業者の良し悪しが、目標達成に大きく影響を与えるということを覚えておいてください。

ここまで進めば次はIT環境の準備です。



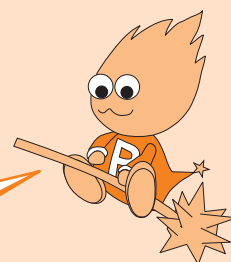
Point

「いいEDI」を実現するためには



EDIを導入するに際しては、関係者全員が共通の目的・目標を持つことが非常に重要なんだよ。

そのためには、社内体制を整備し、EDIサービスに精通した会社との協働で『いいEDI』を実現していくことが大切なんだね。



IT環境の準備には、様々な調整事項があります。

ここでは、「標準EDI」の導入を前提に、IT環境の準備について触れたいと思います。

1. 取引先との調整

EDIは取引先との取り組みなしに導入することはできません。通信プロトコル、フォーマット、コード、導入スケジュールなど、調整すべきことがたくさんあります。これらを自社で調整するか、EDIサービス業者にまかせるか。取引先が多数ある場合、後者を選ぶのが現実的でしょう。

2. システムの準備・増強

選択肢は3つ考えられます。①自社開発する、②開発ツールを購入する、③EDIサービスを利用する。一般的に、自社開発は高い技術力と費用が必要なため、選べる企業は非常に少ないでしょう。開発ツールを購入しシステム構築までベンダーにまかせるか、システム構築と運用をEDIサービス業者にまかせるか、どちらかを選択するのが一般的です。

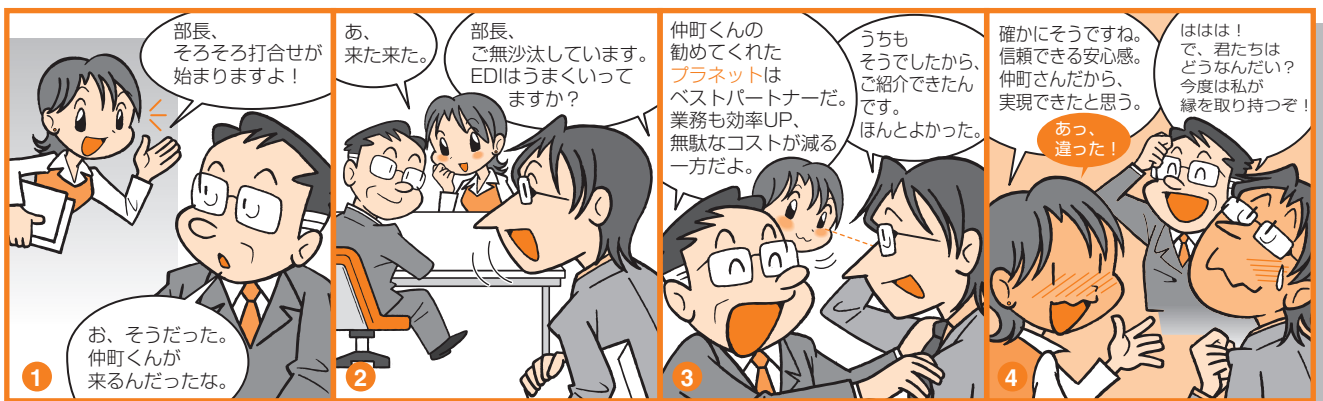
3. 通信プロトコルの選択

通信プロトコルにもいくつかの標準があります。国内標準として広く利用されているベーシック手順プロトコル (JCA手順、全銀手順など) と、インターネット標準プロトコル (AS2、eb-MS、全銀TCP/IPなど) があります。30年前から続いているベーシック手順はその役目を終え消滅する運命にあります。迷わずインターネット標準プロトコルを採用しましょう。自社のシステムがオープン系の場合はAS2かeb-MS、ホスト系の場合は全銀TCP/IPの相性が良いと考えられます。

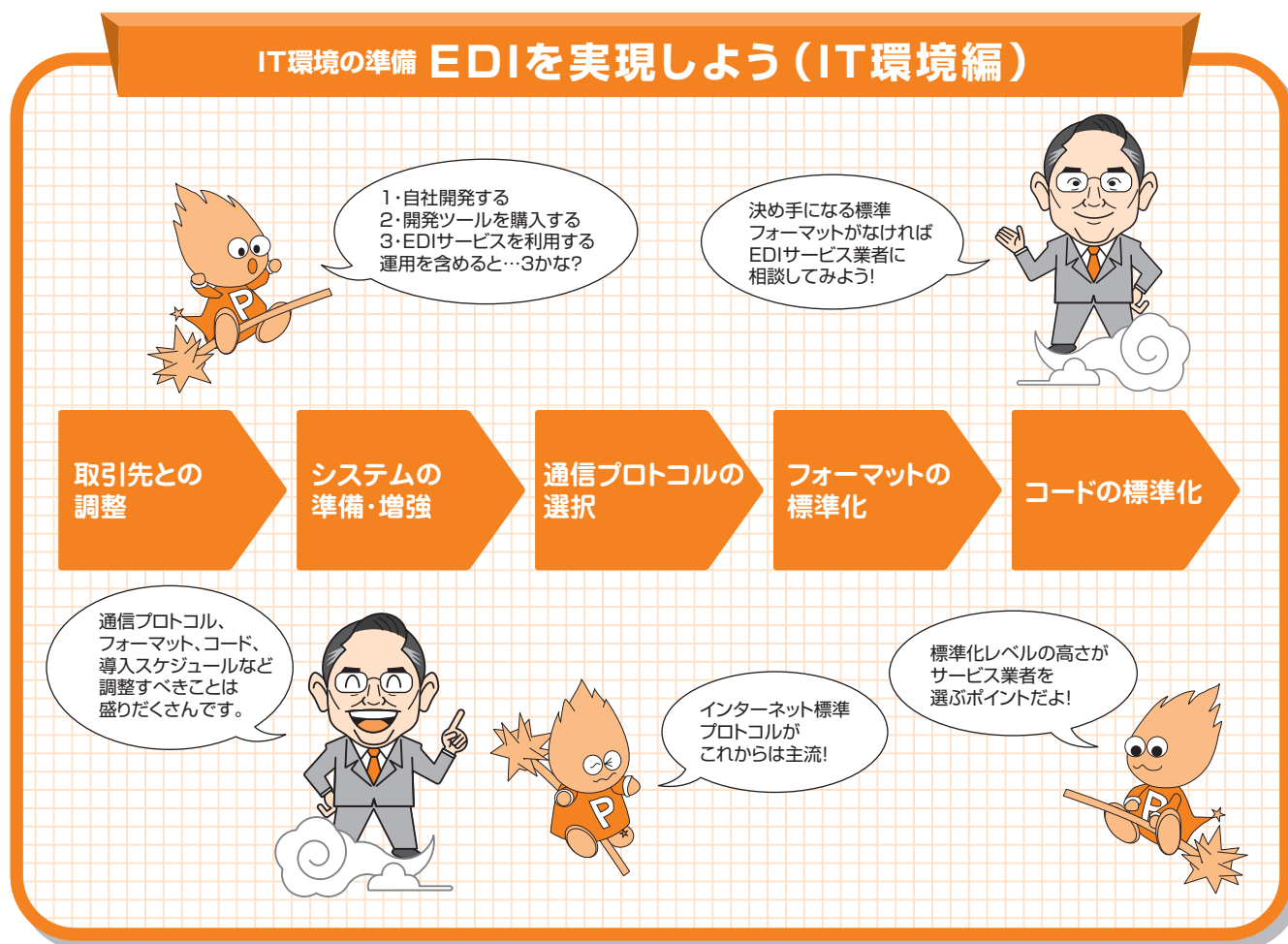
4. フォーマットの標準化

標準フォーマットは、業界標準 (業界により様々) と国際標準 (GSI^{*}) の2つがあります。国際標準が理想ですが、現時点では実証実験が行われている段階で、商用ベースでの実績はまだありません。(2008年10月現在) 取引先を増やすためには、業界標準も視野に入れてフォーマットを選ぶ必要があります。決め手になる標準フォーマットが見つからない場合、業界標準と国際標準であればEDIサービス業者 (業界VAN) がフォーマット変換をすることもあるので、EDIサービス業者に相談してみましょう。

E-D-Iを実現しよう (IT環境編)



IT環境の準備 EDIを実現しよう (IT環境編)



5. コードの標準化

(財) 流通システム開発センターでは、JANメーカーコードと共通取引先コード (2007年よりどちらもGLN) というメーカーと企業 (本社) を識別する標準コードが一元管理されています。理想的標準EDIでは、データ中のコードはすべて標準コードを使用することになるので、JAN商品コード (2007年よりGTIN)、伝送先コード、届け先コード、物流拠点コードなど様々な意味合いのコードを標準化する必要があります。これらのコードを標準化し、データベースで提供している標準化レベルの高いサービス業者を探しましょう。



Point

信頼と実績のある会社選びが大切



標準EDIネットワークを自力で実現するのは現実的ではないんだ。
信頼と実績のあるサービスを利用するのがベストだよ。

信頼と実績のあるサービスって…。簡単に見つけられるのかなあ。

では、次の『活用編』を読んでみなさい。

